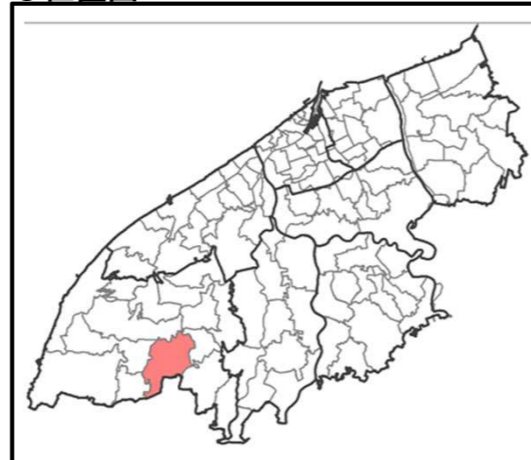


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

漆山		
柿島		
潟頭		
河井		
栄町		
桜林		
並岡		
巻東町		
馬堀		
山島		

●位置図

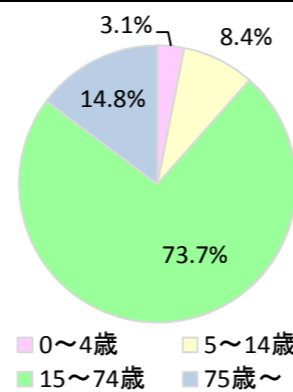


●施設・団体

市役所・区役所等	—
警察・消防	漆山駐在所
消防団	西蒲方面隊 漆山分団
水防倉庫	—
一時避難場所	—
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 漆山東保育園、漆山西保育園
	高齢者 福祉施設 —
	障がい者 福祉施設 —

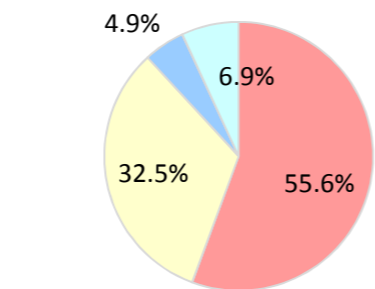
●人口

総人口	4,133人	地区の割合	市の割合
0～4歳	128人	3.1%	4.0%
5～14歳	349人	8.4%	8.5%
15～74歳	3,045人	73.7%	74.6%
75歳～	611人	14.8%	12.9%
65歳以上人口	1,103人	26.7%	26.0%
世帯数	1,252世帯		
一世帯あたり人口	3.3人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	298人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	3,678人	夜間の89.0%	



●建物関連指標

総棟数	3,018棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,679棟	55.6%
	S56年以降建築	981棟	32.5%
	計	2,661棟	88.2%
非木造	S55年以前建築	149棟	4.9%
	S56年以降建築	208棟	6.9%
	計	358棟	11.8%
S56年以降建築物	1,189棟	39.4%	52.4%



木造 ■ S55年以前建築 ■ S56年以降建築  
非木造 ■ S55年以前建築 ■ S56年以降建築

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]漆山小学校	3.2	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]漆山公民館	3.1	1	○	—	×	—
[ヒ]漆山グラウンド・体育館	3.2	1	○	—	×	—
[ヒ]漆山東保育園	3.3	1	○	—	×	—
[ヒ]漆山西保育園	4.5	1	○	—	×	—

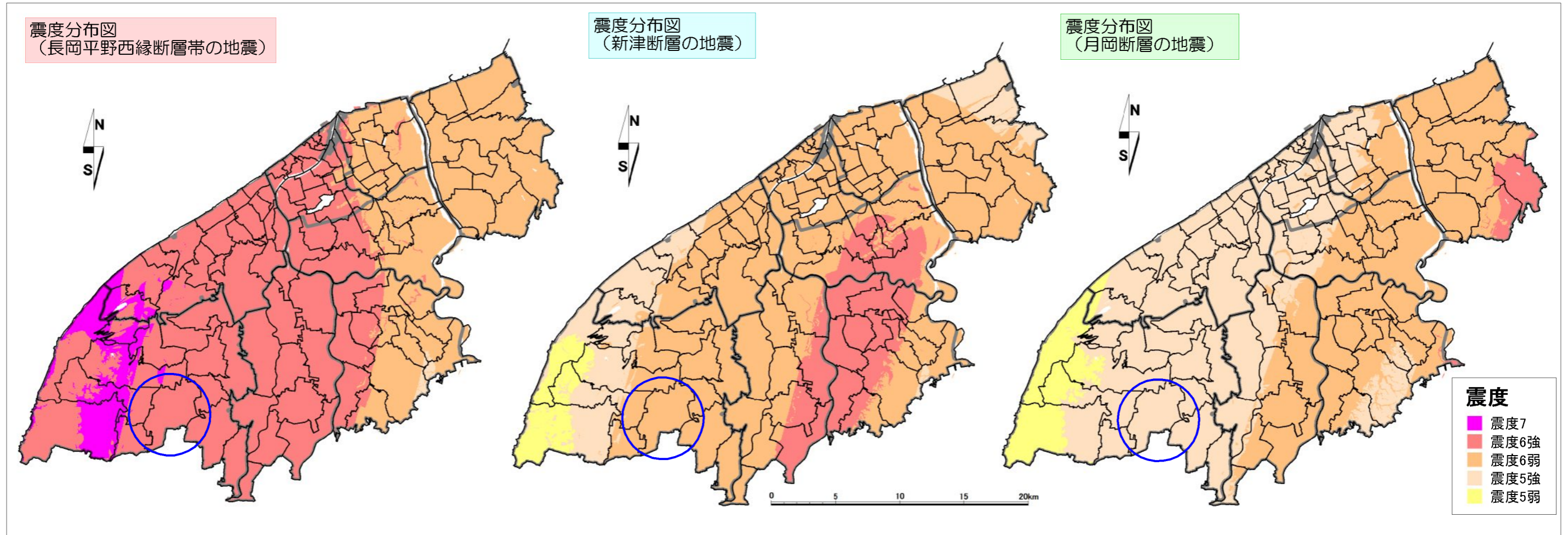
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]巻東中学校	3.3	3	○	—	2階以上	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、避難可能な階数を「○」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

津波	地震	地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性がある。津波の浸水は想定されていない。
土砂	水害	信濃川下流の洪水、中ノ口川の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、信濃川下流、大河津分水路、新川・大通川流域の洪水では地区の大部分で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

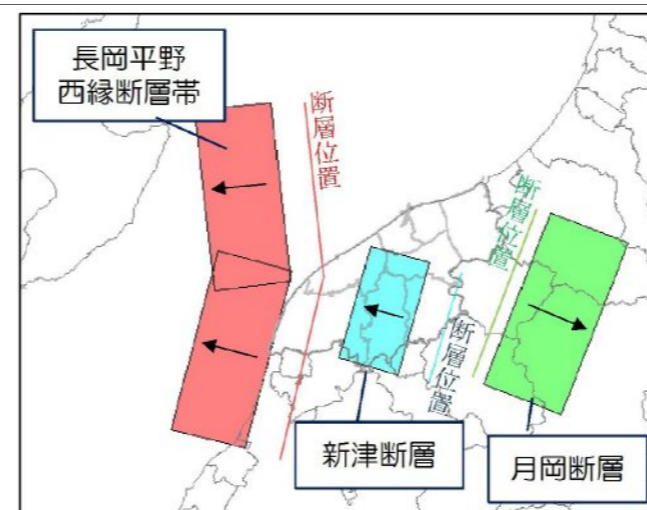
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

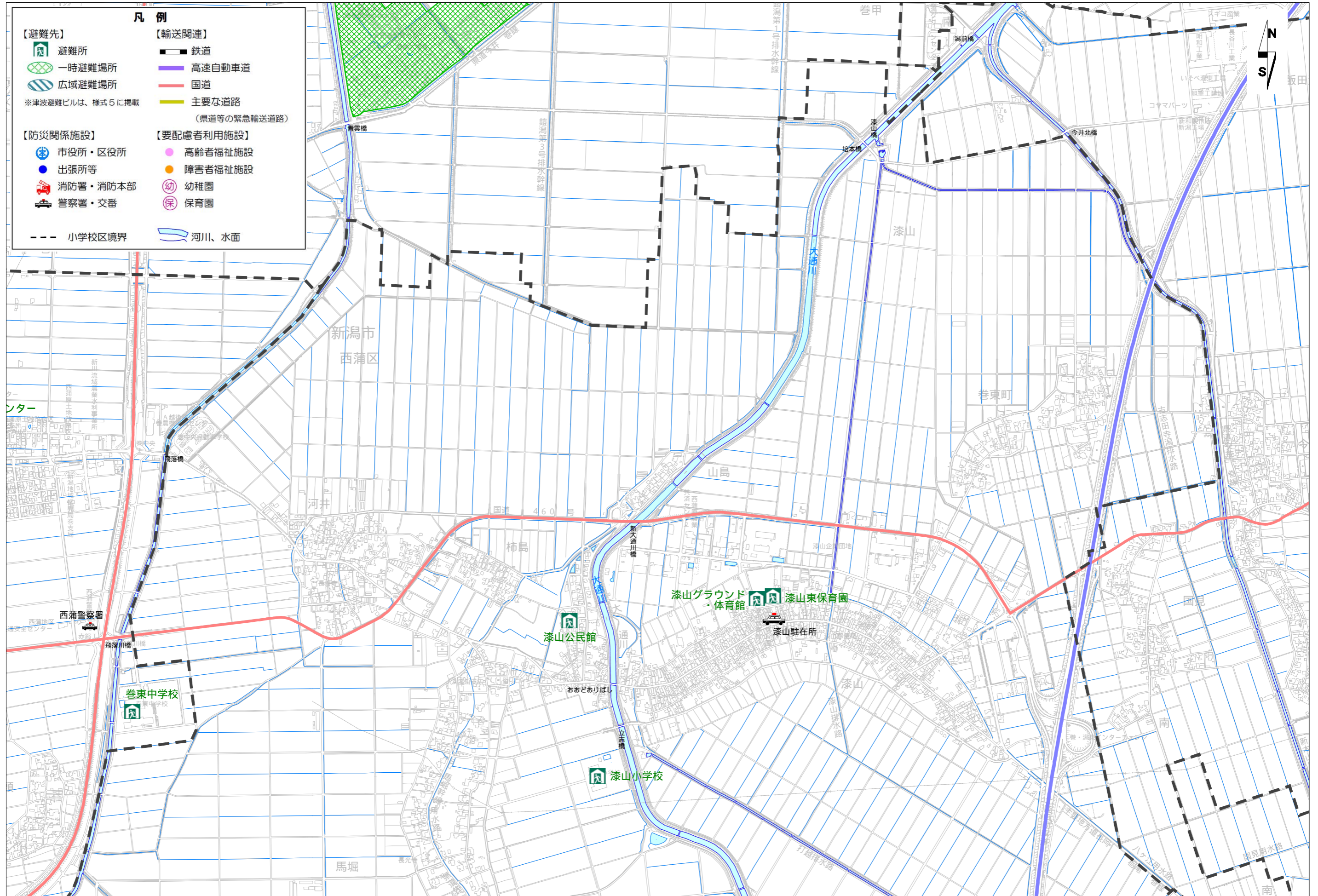
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

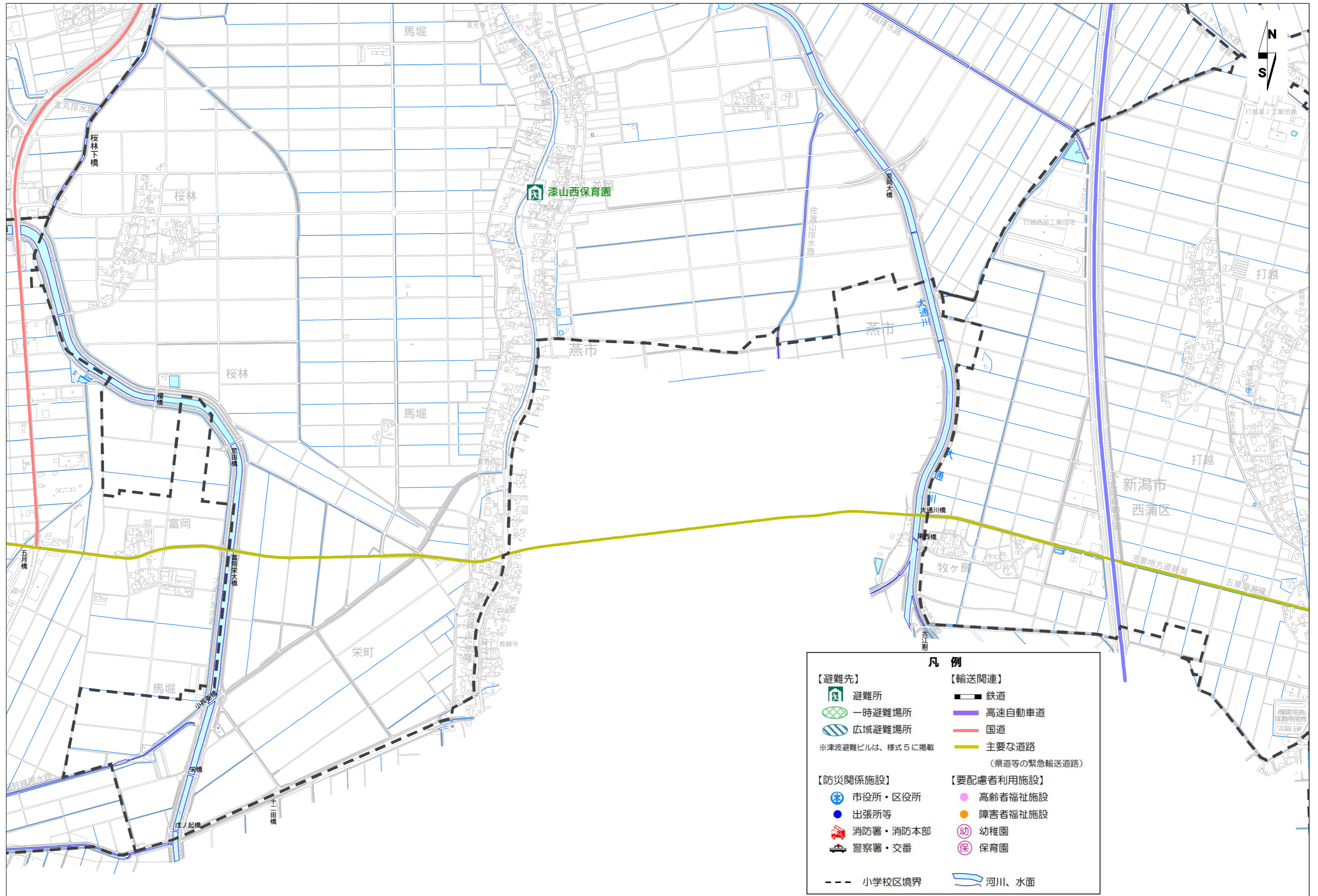


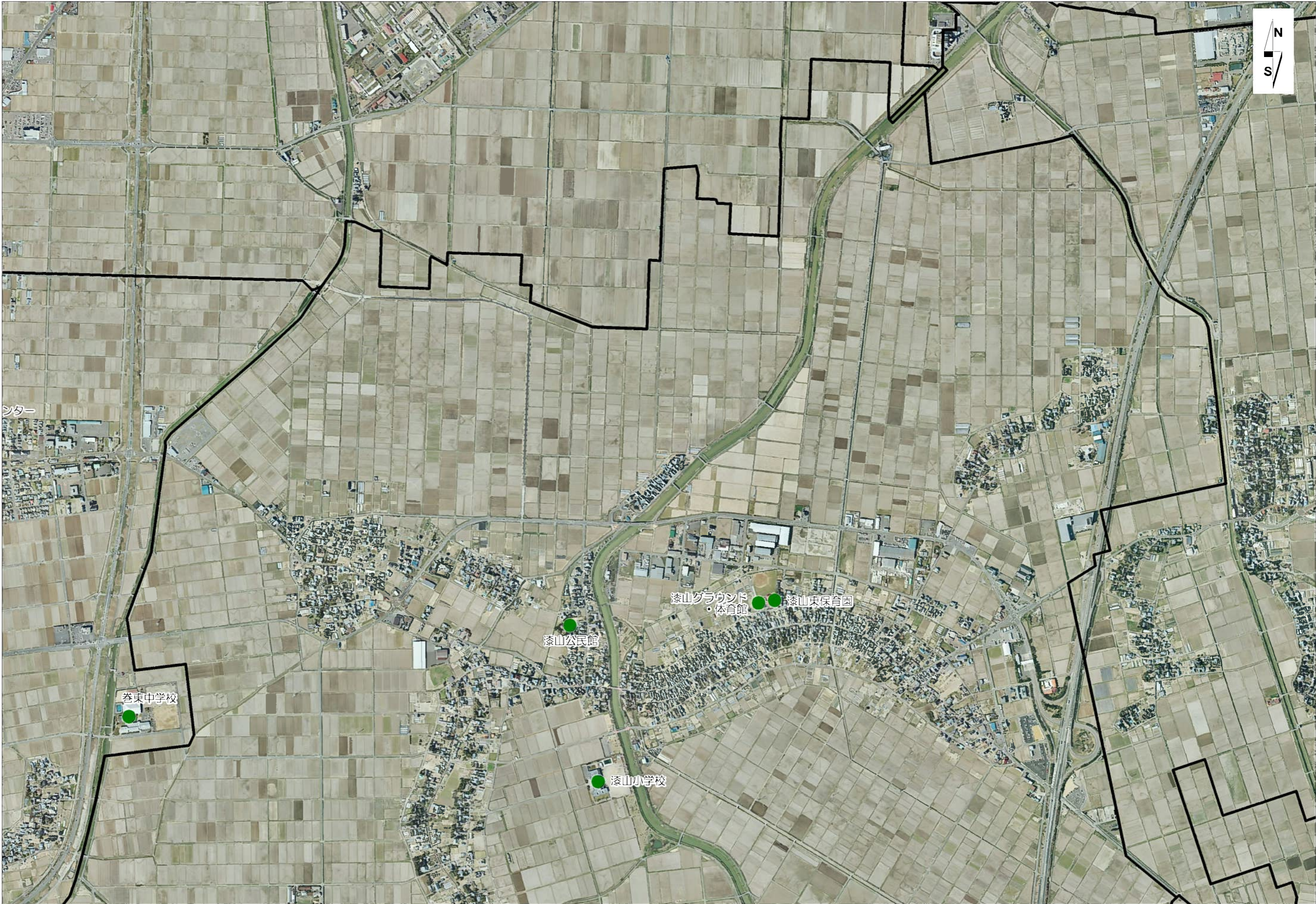
← は、断層の傾きを示しています。



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

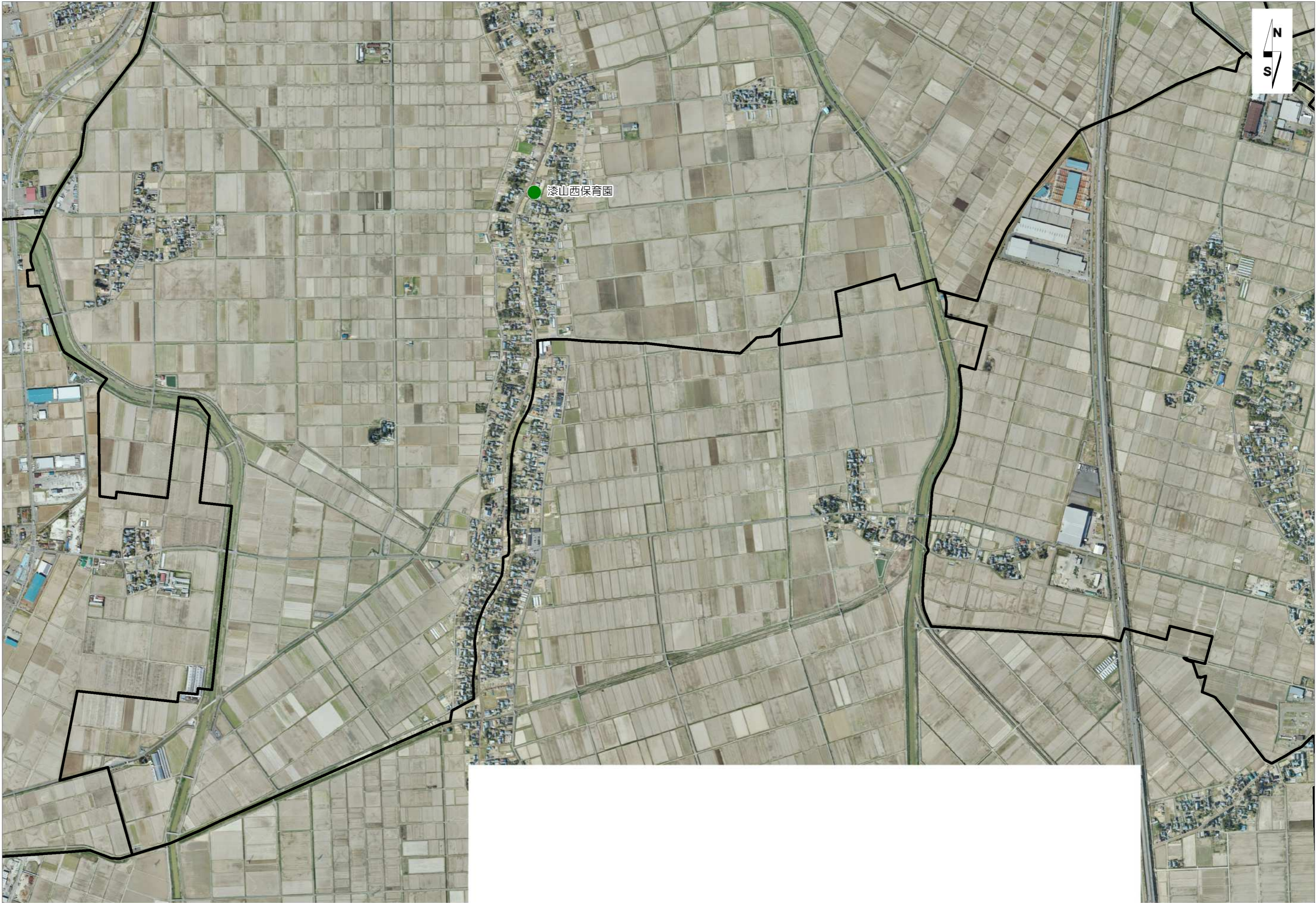






〔出典〕 航空写真(平成26年4月)



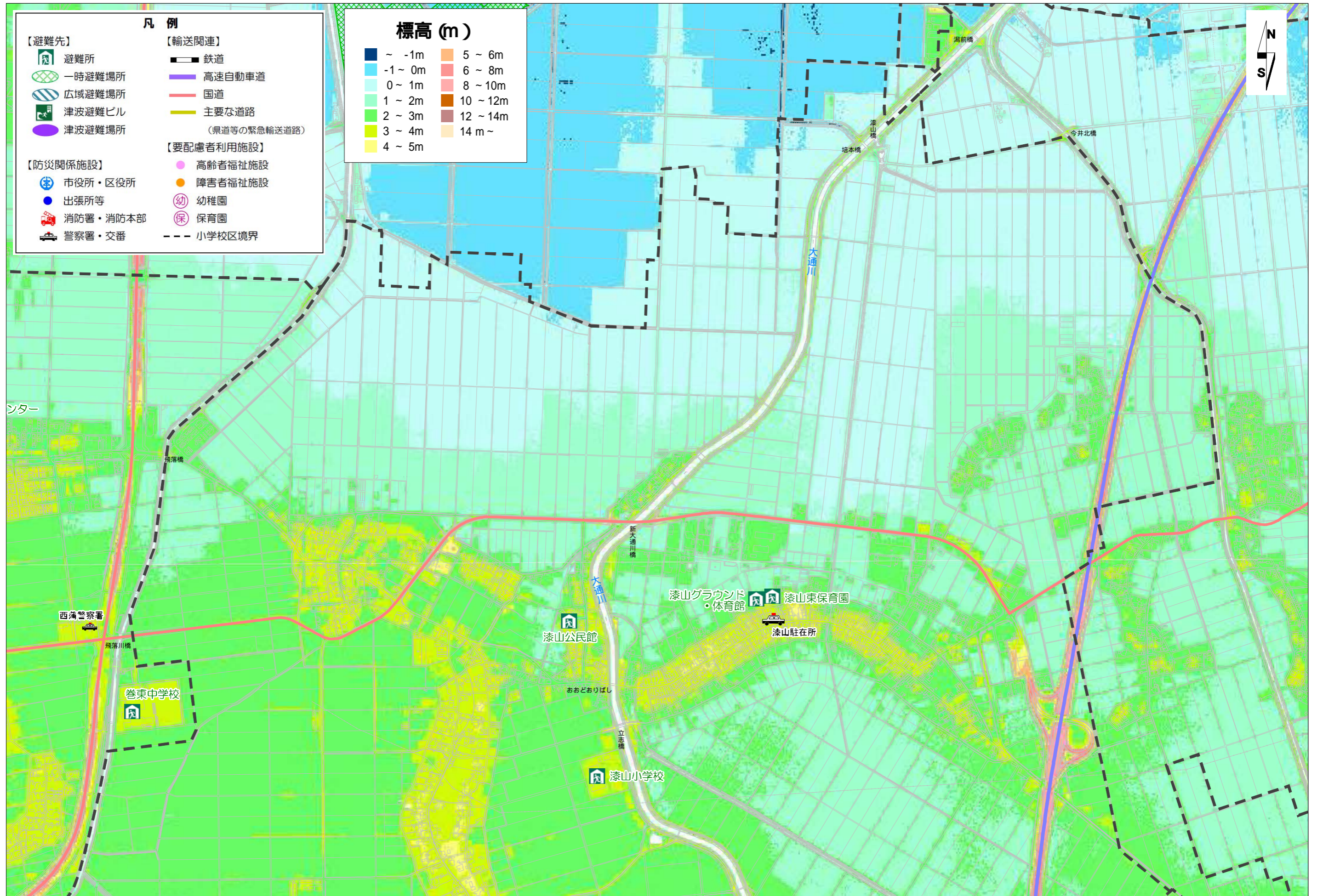


〔出典〕 航空写真(平成26年4月)

0 100 200 400 600 800 1000m

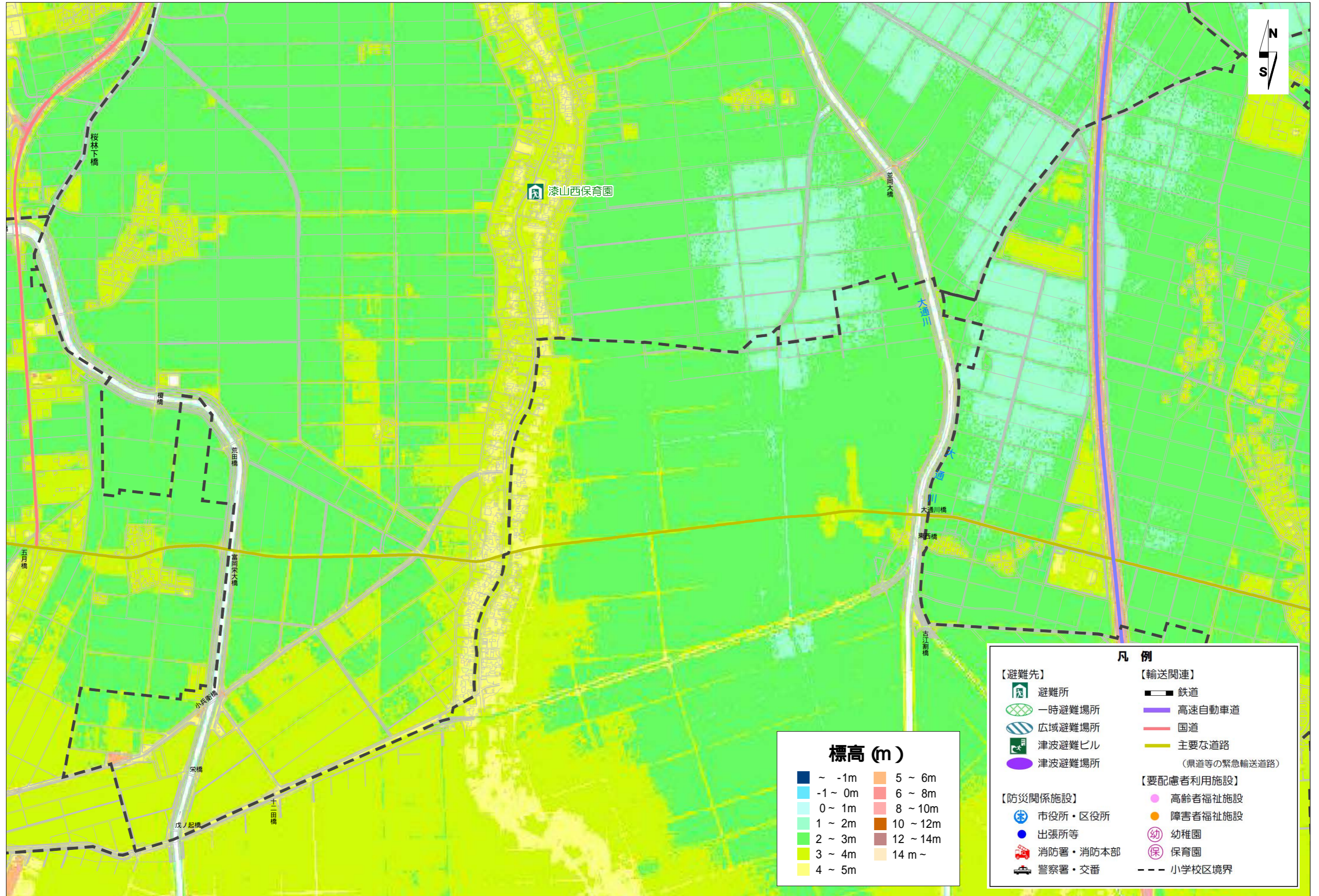
様式5 標高分布図

漆山小学校区(1)



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)  
5mメッシュDEM (国土地理院,平成25年)

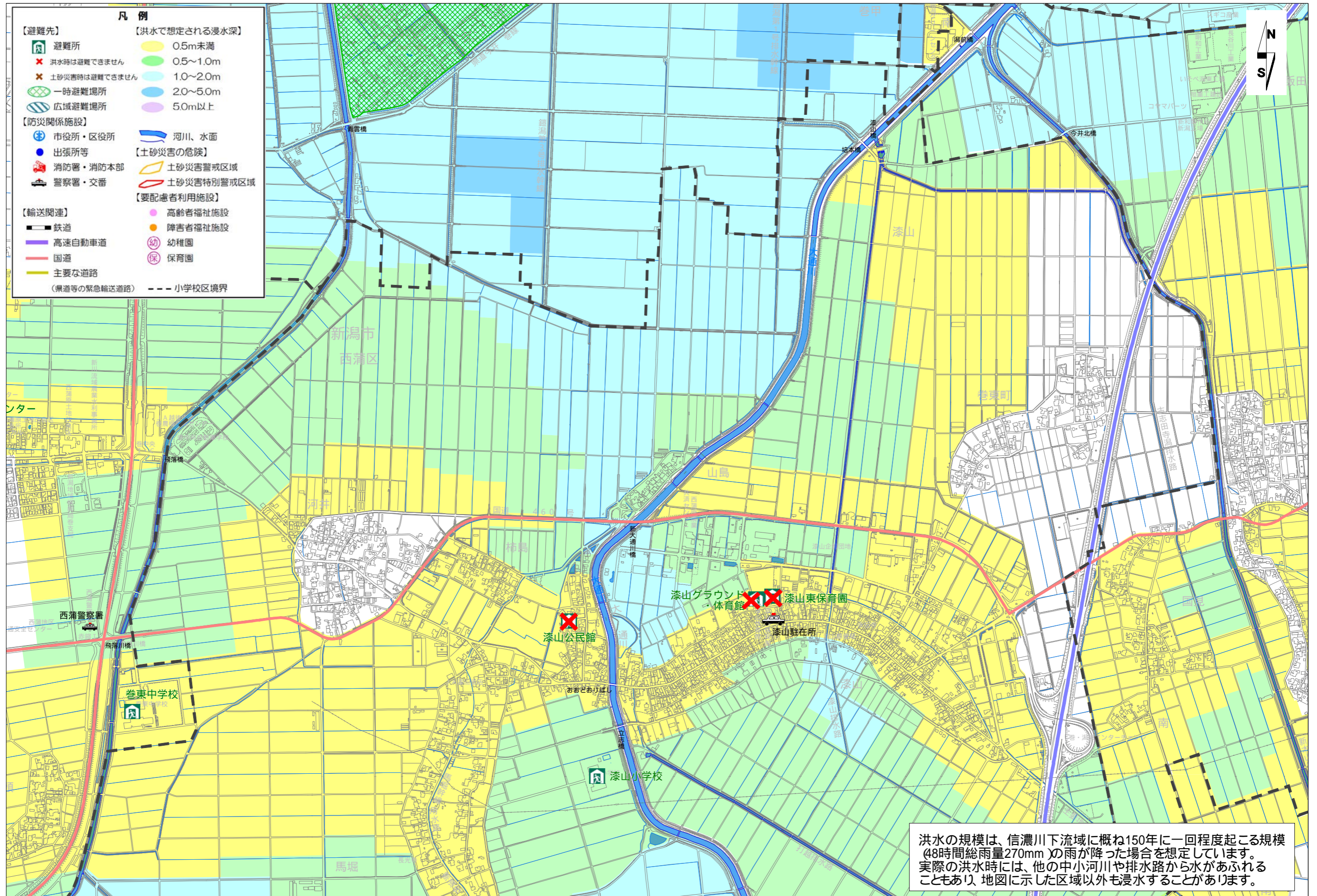




[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
5mメッシュDEM(国土地理院,平成25年)



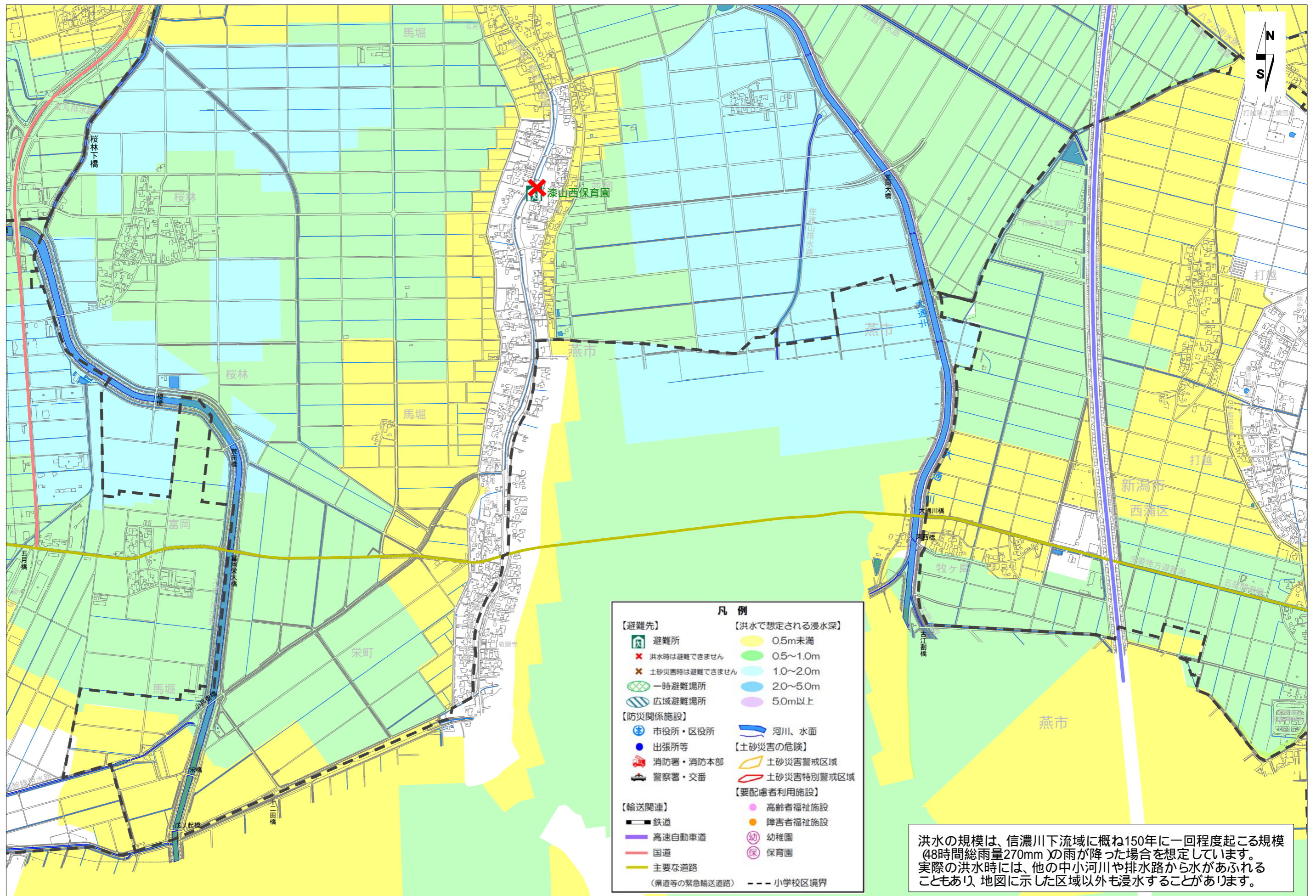




洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



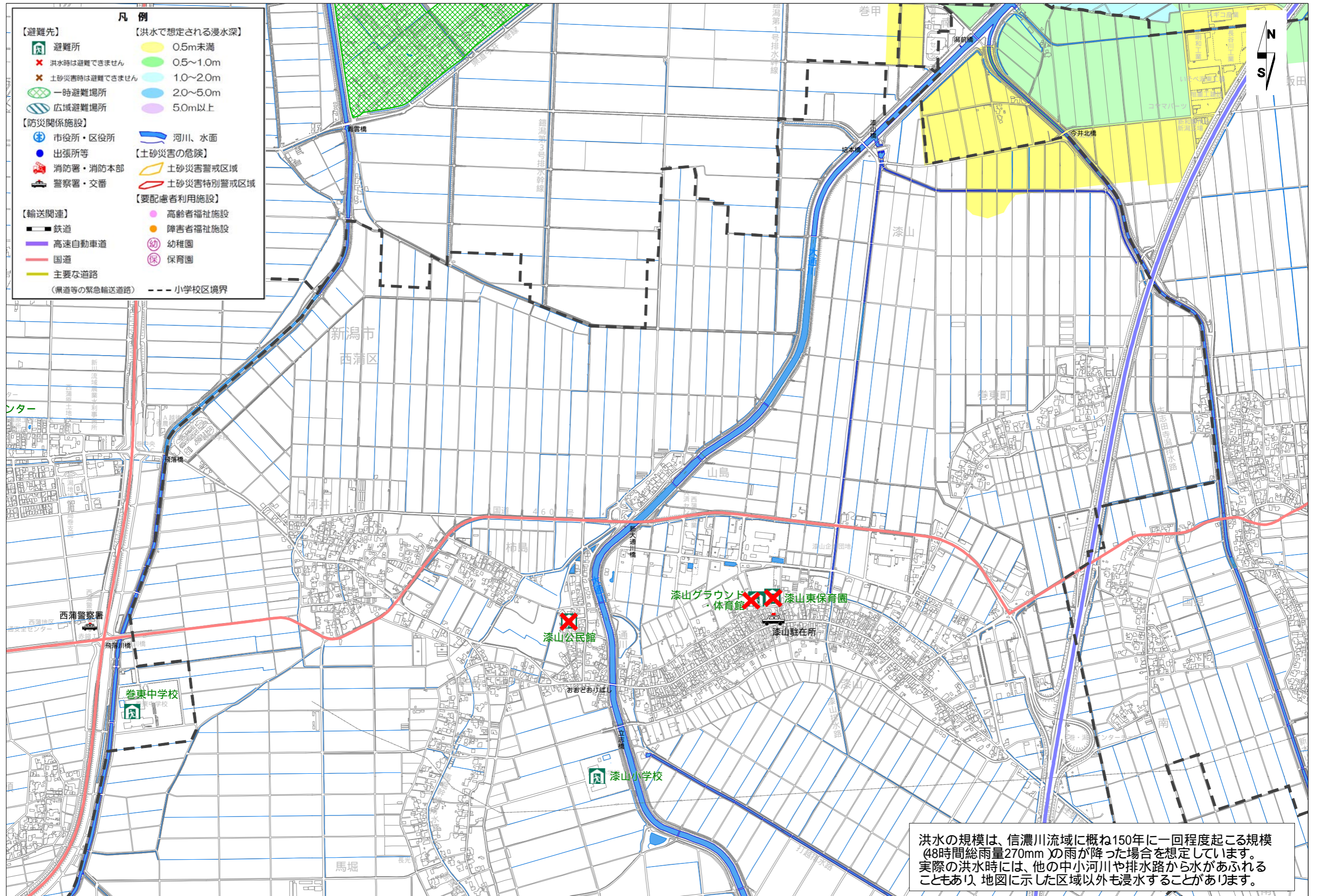


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（中ノ口川）

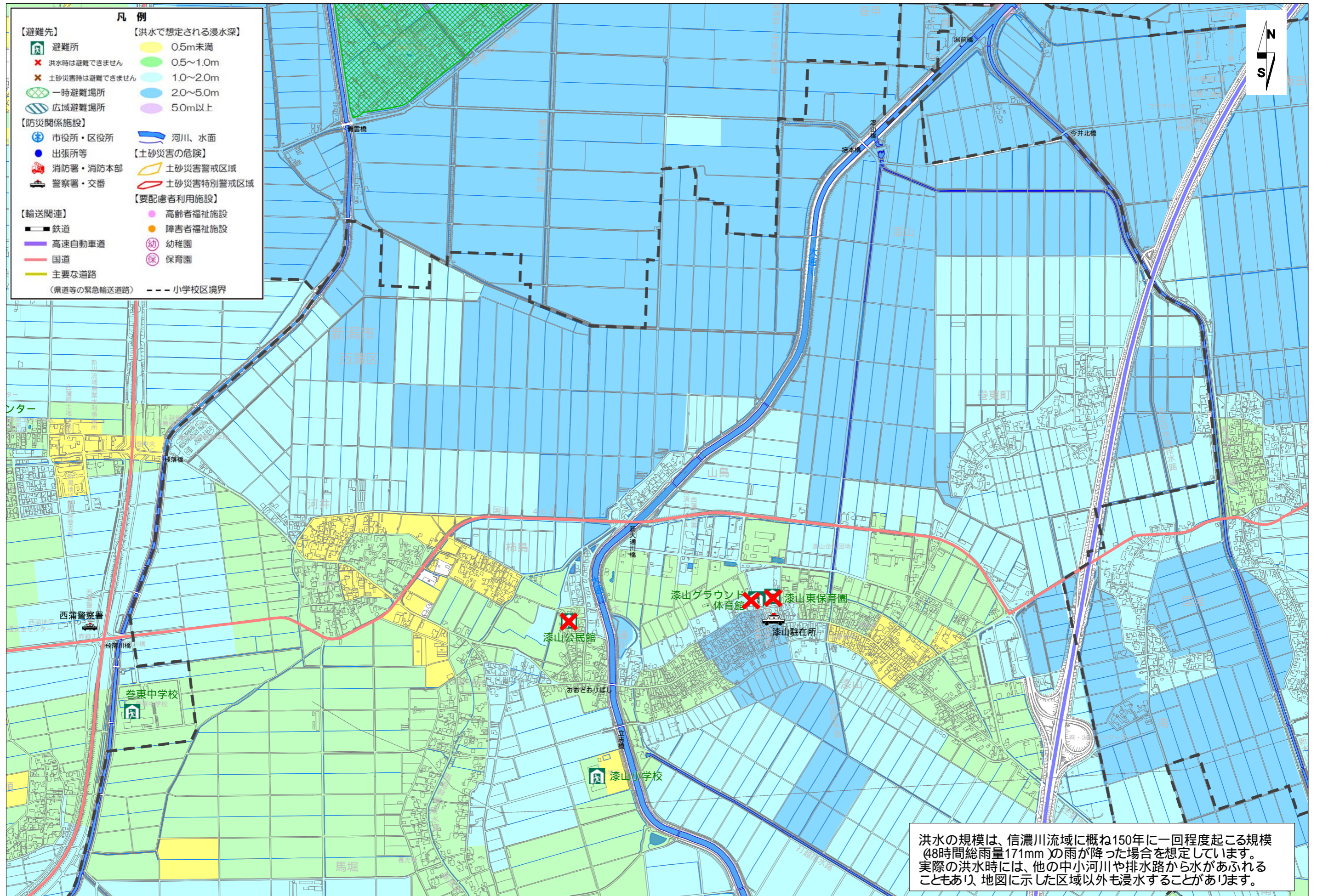
漆山小学校区(1)



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)



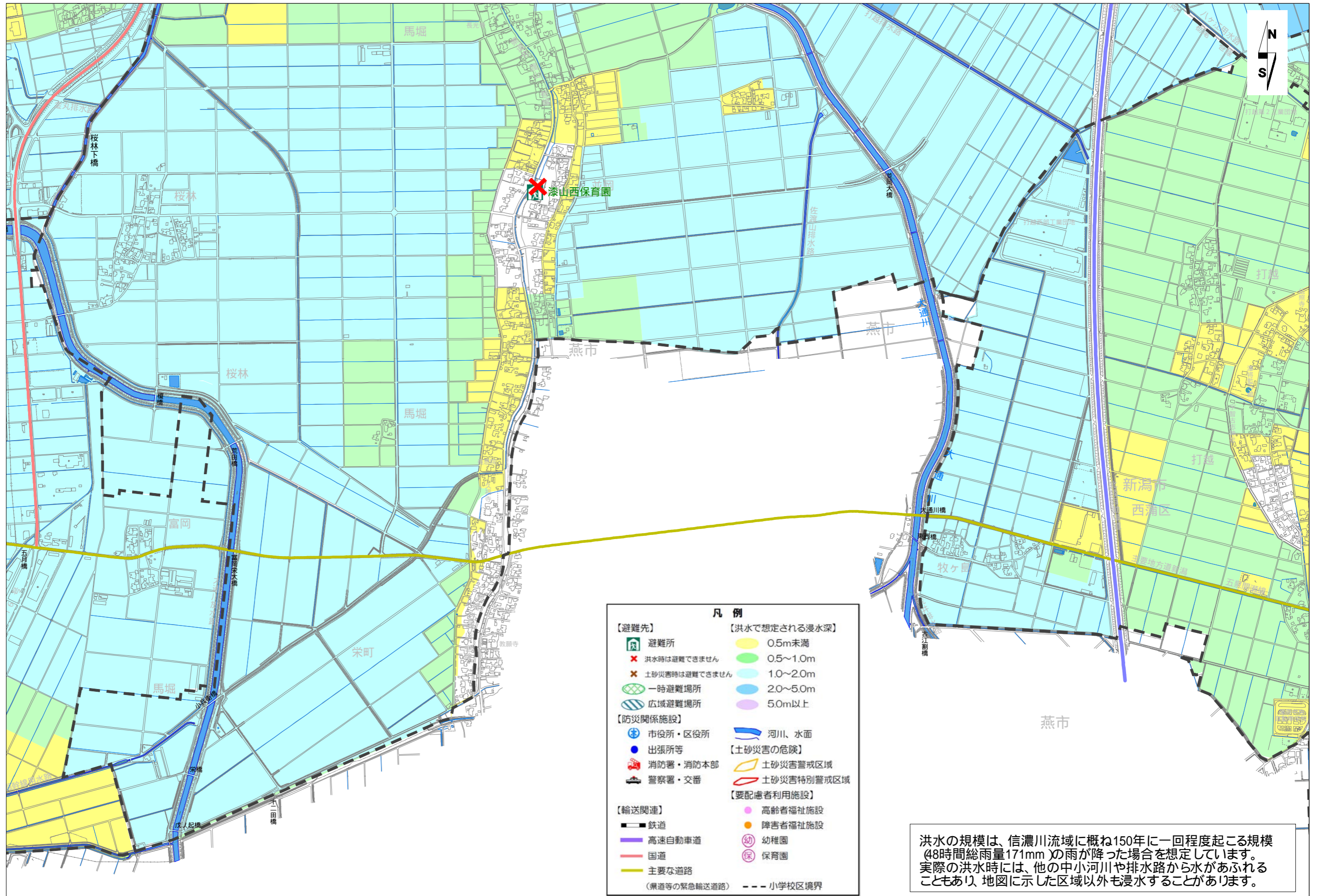
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。



洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量171mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

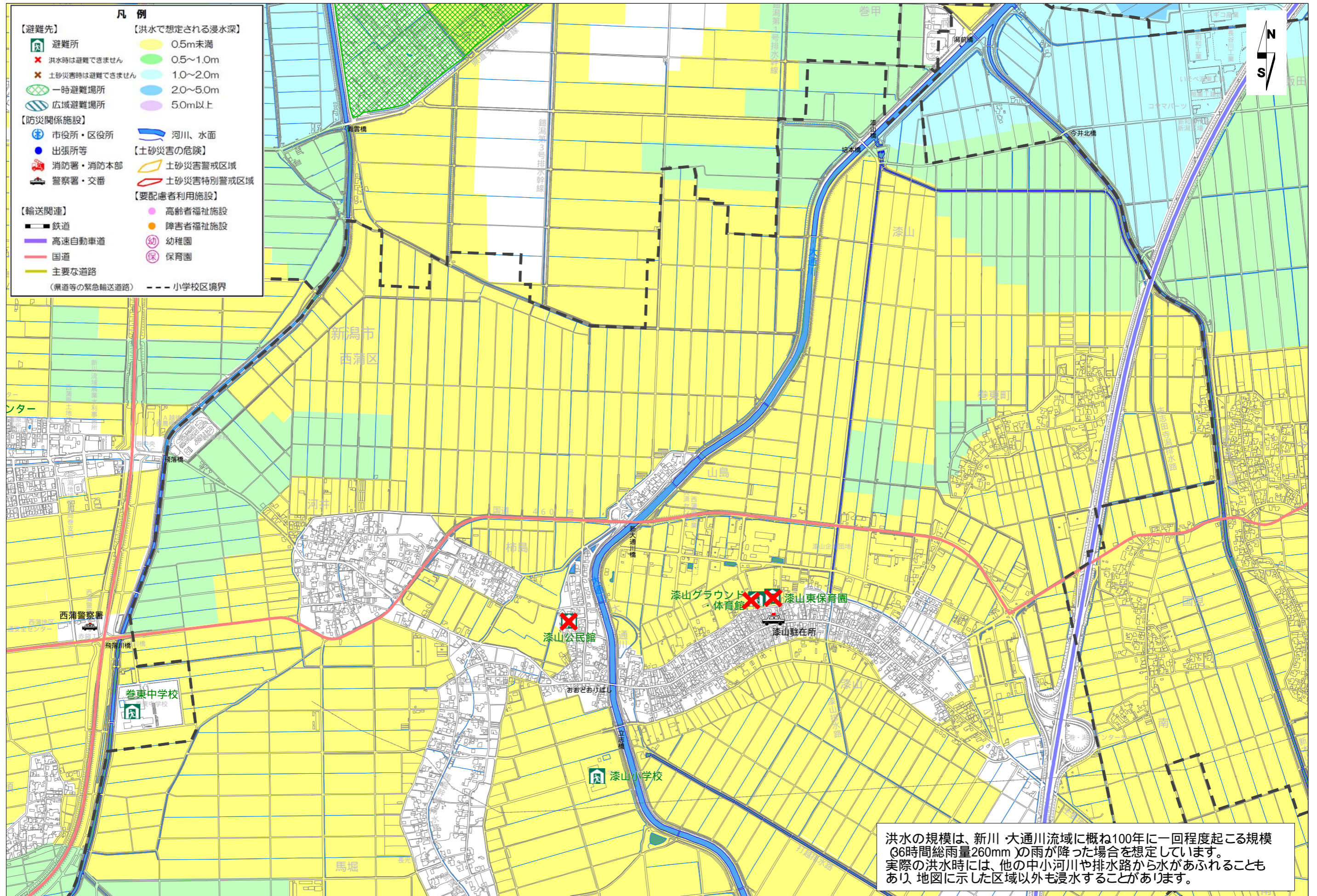
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)





[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

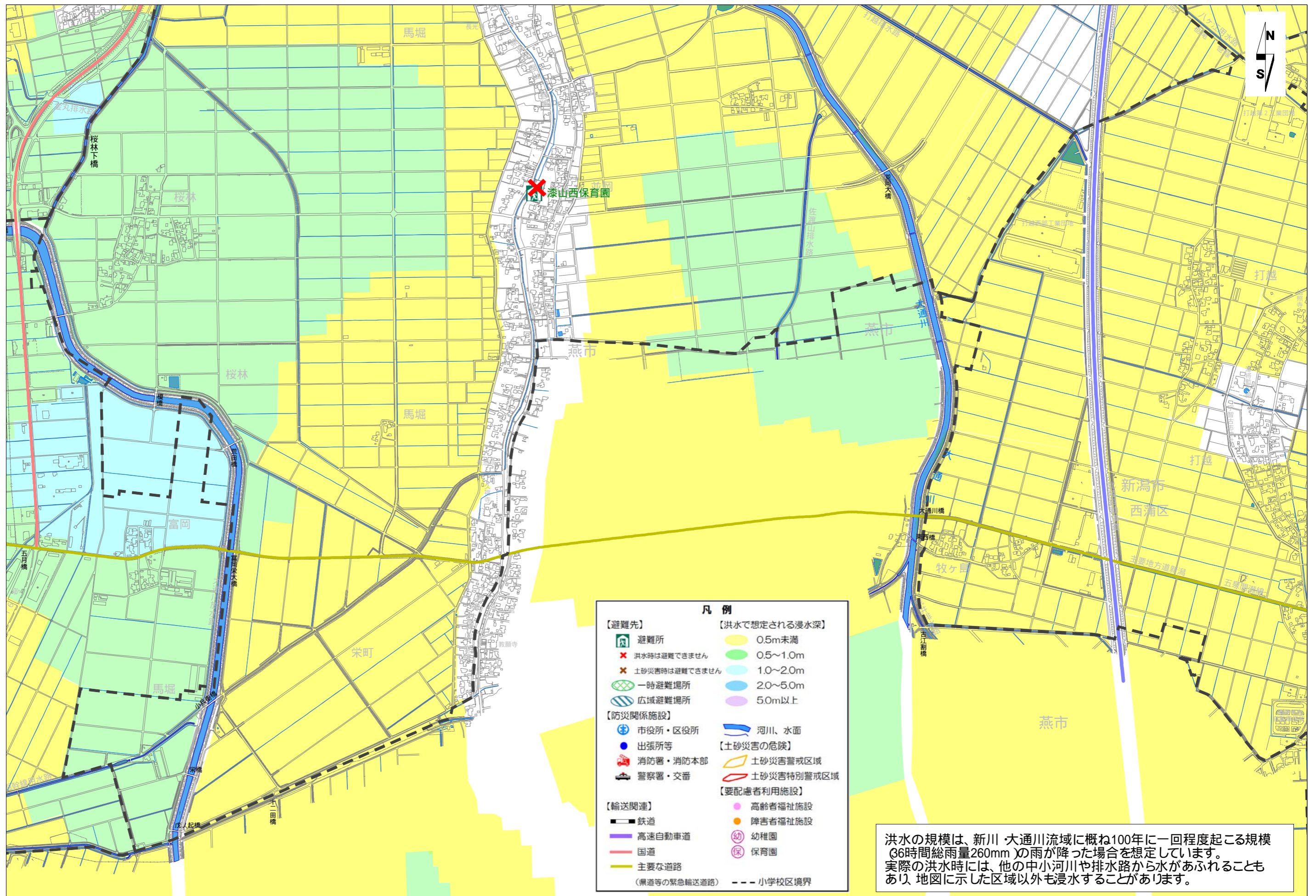




洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模(36時間総雨量260mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域(新潟県,平成20年2月26日)





【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域(新潟県,平成20年2月26日)

